



2020年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年8月7日

上場会社名 株式会社AOKIホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 8214 URL http://www.aoki-hd.co.jp/
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 青木 彰宏
 問合せ先責任者(役職名) 取締役副社長 (氏名) 田村 春生 (TEL) 045-941-1388
 四半期報告書提出予定日 2019年8月8日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第1四半期の連結業績(2019年4月1日~2019年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第1四半期	43,334	△3.9	228	△66.1	△125	—	△288	—
2019年3月期第1四半期	45,113	△3.0	673	△28.7	165	△80.8	△296	—

(注) 包括利益 2020年3月期第1四半期 △434百万円(—%) 2019年3月期第1四半期 △289百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第1四半期	△3.35	—
2019年3月期第1四半期	△3.43	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第1四半期	231,210	142,568	61.6
2019年3月期	232,056	145,671	62.7

(参考) 自己資本 2020年3月期第1四半期 142,497百万円 2019年3月期 145,595百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	29.00	—	31.00	60.00
2020年3月期	—	—	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	23.00	—	23.00	46.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2019年3月期第2四半期末配当金の内訳 普通配当22円00銭 記念配当7円00銭

2019年3月期期末配当金の内訳 普通配当23円00銭 記念配当8円00銭

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日~2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	194,050	△0.5	12,300	△8.8	11,750	△1.2	5,400	17.3	62.85

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2020年3月期1Q	90,649,504株	2019年3月期	90,649,504株
② 期末自己株式数	2020年3月期1Q	4,724,448株	2019年3月期	4,724,330株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2020年3月期1Q	85,925,130株	2019年3月期1Q	86,501,449株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料3ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

	頁
1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結会計期間より、不動産賃貸収入及び不動産賃貸費用の表示方法を「営業外収入」、「販売費及び一般管理費」及び「営業外費用」から「売上高」及び「売上原価」に変更し、表示方法の変更の内容を反映させた組替え後の数値で前年同四半期連結累計期間との比較・分析を行っております。

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用や所得環境の改善等を背景に引き続き緩やかな回復基調で推移いたしました。前年度末頃より米中貿易摩擦など海外情勢の不確実性等の高まりもあり、先行き不透明な状況が続いております。

このような環境のなかで、当社グループは各事業において下記のような諸施策を実施した結果、売上高は433億34百万円（前年同期比3.9%減）、営業利益は2億28百万円（前年同期比66.1%減）、経常損失は1億25百万円（前年同期は経常利益1億65百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は2億88百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失2億96百万円）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりです。

なお、当第1四半期連結会計期間より、報告セグメントとして記載する事業セグメントを変更しており、当第1四半期連結累計期間の比較・分析は、変更後の区分に基づいております。

(ファッション事業)

AOKIでは、パーソナルオーダースーツの提案及び春夏シーズンを快適に過ごしていただくため、様々な機能を持ったクールビズ商品を強化いたしました。また、メンズ、レディースとも着回し自在なセットアップスーツの展開を拡充いたしました。店舗面では、3店舗を新規出店した一方、個店ごとの採算及びドミナントエリアの見直しを行い、移転や複合カフェ等への業態転換を含む39店舗を閉鎖した結果、当第1四半期末の店舗数は530店舗（前期末566店舗）となりました。

ORIHICA（オリヒカ）は、ノンアイロンシリーズの拡充とクールビズスタイルを強化するとともに、発売から5年目を迎えた「THE THIRD SUITS（サードスーツ）」を通勤や出張時用に進化させ展開いたしました。なお、当第1四半期における出退店はなく、店舗数は131店舗となっております。

これらの結果、店舗数の減少及びビジネススタイルの変化等により既存店が低調に推移し、売上高は241億81百万円（前年同期比6.5%減）、営業損失は3億95百万円（前年同期は営業損失2億4百万円）となりました。

(アニヴェルセル・ブライダル事業)

ゲストハウスウェディングスタイルの挙式披露宴施設を展開しているアニヴェルセル株式会社は、ブライダルフェアの強化及びオリジナルドレスコレクションの展開等により集客力の向上を図りました。また、公式アプリの配信及び公式アカウントを開設しSNSを活用したサービスを強化いたしました。しかしながら店舗数の減少及び市場環境の影響等により施行組数が減少いたしました。

これらの結果、売上高は55億92百万円（前年同期比14.7%減）、営業損失は35百万円（前年同期は営業利益4億17百万円）となりました。

(エンターテイメント事業)

複合カフェの快活CLUBは、ブース構成の改善やカラオケ、禁煙ブース及びシャワー等の増設を中心に30店舗の積極的なリニューアルを実施するとともに、無料モーニング食べ放題の実施店舗の拡大等、顧客ニーズに合わせた施策を強化いたしました。

また、新業態として快活CLUBに併設した24時間営業のセルフ型フィットネスジム「FIT24」の展開をスタートし、快活CLUBと設備・サービスを相互利用できる独自の強みにより、他社との差別化を図っております。

カラオケのコート・ダジュールは、カラオケ最新機種及びハイレゾスピーカー導入等により設備の強化を行い、既存店の活性化に注力いたしました。

店舗面では、快活CLUBで13店舗、FIT24で3店舗を新規出店し、当第1四半期の店舗数はコート・ダジュールと合わせて515店舗（前期末499店舗）となりました。

これらの結果、新規出店の寄与及び既存店が好調に推移し、売上高は132億61百万円（前年同期比6.6%増）、営業利益は4億63百万円（前年同期比150.4%増）となりました。

(不動産賃貸事業)

不動産賃貸事業では、前連結会計年度に閉店したカラオケのコート・ダジュールの店舗を賃貸したこと等により、売上高は8億46百万円（前年同期比10.4%増）、営業利益は転貸損失の発生等により1億22百万円（前年同期比30.8%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、季節的要因等により前連結会計年度末と比べ8億46百万円減少し、2,312億10百万円となりました。

流動資産は、現金及び預金が売掛金の回収等により31億18百万円増加した一方、売掛金が季節的要因等により56億13百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ16億98百万円減少いたしました。固定資産は、有形固定資産が新規出店等により4億10百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ8億52百万円増加いたしました。

(負債)

流動負債は、買掛金が季節的要因等により33億96百万円減少した一方、短期借入れを40億円実施したこと及び1年内返済予定の長期借入金が10億円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ22億69百万円増加いたしました。固定負債は、大きな増減はありません。

(純資産)

純資産の部は、利益剰余金が親会社株主に帰属する四半期純損失及び剰余金の配当の結果29億51百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ31億2百万円減少しております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期連結累計期間の業績について、売上高はファッション事業の既存店が低調に推移したことでやや弱めに推移しましたが、営業利益はエンターテインメント事業の既存店売上高が好調に推移したこと及び各事業において経費削減に努めた結果、全体では概ね予定どおり推移しており、2019年5月10日に公表した通期業績予想を修正しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	26,558	29,676
売掛金	11,793	6,180
たな卸資産	25,574	25,352
その他	9,061	10,076
貸倒引当金	△38	△35
流動資産合計	72,948	71,250
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	60,933	61,275
土地	36,941	36,941
その他(純額)	12,083	12,152
有形固定資産合計	109,958	110,368
無形固定資産		
投資その他の資産	5,932	6,140
差入保証金	7,881	7,912
敷金	20,536	20,502
その他	14,838	15,075
貸倒引当金	△40	△40
投資その他の資産合計	43,216	43,450
固定資産合計	159,107	159,959
資産合計	232,056	231,210
負債の部		
流動負債		
買掛金	18,162	14,765
短期借入金	—	4,000
1年内返済予定の長期借入金	2,650	3,650
未払法人税等	579	138
賞与引当金	2,078	932
役員賞与引当金	83	21
その他	13,624	15,939
流動負債合計	37,177	39,447
固定負債		
長期借入金	34,825	34,825
ポイント引当金	872	824
退職給付に係る負債	1,094	1,113
資産除去債務	6,466	6,483
その他	5,949	5,947
固定負債合計	49,208	49,193
負債合計	86,385	88,641

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2019年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	23,282	23,282
資本剰余金	27,846	27,846
利益剰余金	100,488	97,536
自己株式	△6,302	△6,302
株主資本合計	145,315	142,363
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	370	209
退職給付に係る調整累計額	△89	△75
その他の包括利益累計額合計	280	133
新株予約権	75	71
純資産合計	145,671	142,568
負債純資産合計	232,056	231,210

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
売上高	45,113	43,334
売上原価	26,726	26,101
売上総利益	18,386	17,233
販売費及び一般管理費	17,713	17,005
営業利益	673	228
営業外収益		
受取利息	28	24
受取配当金	26	27
その他	47	49
営業外収益合計	102	101
営業外費用		
支払利息	78	68
固定資産除却損	289	222
その他	242	164
営業外費用合計	610	455
経常利益又は経常損失(△)	165	△125
特別利益		
固定資産売却益	—	50
新株予約権戻入益	7	3
特別利益合計	7	53
特別損失		
減損損失	643	220
特別損失合計	643	220
税金等調整前四半期純損失(△)	△470	△292
法人税、住民税及び事業税	190	112
法人税等調整額	△364	△116
法人税等合計	△173	△4
四半期純損失(△)	△296	△288
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△296	△288

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年6月30日)
四半期純損失(△)	△296	△288
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△9	△160
退職給付に係る調整額	16	13
その他の包括利益合計	7	△146
四半期包括利益	△289	△434
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△289	△434
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

該当事項はありません。

(追加情報)

(表示方法の変更)

従来、不動産賃貸収入及び不動産賃貸費用については「営業外収入」、「販売費及び一般管理費」及び「営業外費用」に計上しておりましたが、当第1四半期連結会計期間より「売上高」及び「売上原価」に計上する方法に変更いたしました。

これは、不動産賃貸事業を主要な事業の一つとして位置づけ、不動産賃貸収入が安定的な収益源であるとの認識及び不動産賃貸物件の増加による不動産賃貸収入の増加が見込まれること、また、担当部門においてその収益性を適切に管理することとなったこと等から、事業の実態をより適切に表示するために表示方法の変更を行ったものです。この表示方法の変更を反映させるため、前第1四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前第1四半期連結累計期間の四半期連結損益計算書において「営業外収益」の「不動産賃貸料」129百万円、「営業外費用」の「不動産賃貸費用」96百万円及び「販売費及び一般管理費」に含めて表示していた不動産賃貸関連の7百万円を組替えた結果、「売上高」が279百万円及び「売上原価」が253百万円増加しております。

(セグメント情報等)

前第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ファッション 事業	アニヴェル セル・ブラ イダル事業	エンターテ イメント 事業	不動産賃貸 事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	25,851	6,542	12,439	279	45,113	—	45,113
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1	10	0	487	499	△499	—
計	25,852	6,553	12,440	766	45,613	△499	45,113
セグメント利益 又は損失(△)	△204	417	185	176	574	98	673

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額98百万円には、セグメント間取引消去890百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△791百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門等の費用です。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ファッション事業」及び「エンターテインメント事業」の各セグメントにおいて、店舗の移転を含めた閉鎖や業態転換が決定したこと等により回収が見込めなくなった営業店舗及び損益が継続してマイナスとなる転貸店舗について減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においてはそれぞれ81百万円及び561百万円です。

当第1四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ファッション 事業	アニヴェル セル・ブラ イダル事業	エンターテ イメント 事業	不動産賃貸 事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	24,181	5,588	13,261	302	43,334	—	43,334
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	3	0	544	547	△547	—
計	24,181	5,592	13,261	846	43,882	△547	43,334
セグメント利益 又は損失(△)	△395	△35	463	122	154	73	228

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額73百万円には、セグメント間取引消去1,052百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△979百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門等の費用です。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ファッション事業」、「エンターテイメント事業」及び「不動産賃貸事業」の各セグメントにおいて、店舗の閉鎖や業態転換が決定したこと等により回収が見込めなくなった営業店舗及び損益が継続的にマイナスとなる転貸店舗について減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においてはそれぞれ167百万円、37百万円及び14百万円です。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、管理組織の変更及び事業内容の多様化に伴い、「カラオケルーム運営事業」及び「複合カフェ運営事業」を統合し「エンターテイメント事業」に変更いたしました。

また、「(追加情報)(表示方法の変更)」に記載のとおり、不動産賃貸に関する事業を「不動産賃貸事業」として新たな報告セグメントに区分しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分により作成したものを記載しております。